

候補者選考委員会（第2回）議事要旨

日 時 令和7年12月18日（木） 16:00～18:00
場 所 日本学術会議大会議室（オンライン会議併用）
出席者 山口委員長、五十嵐委員、大隅委員、岡部委員、長我部委員、
川合委員、國土委員、城山委員、清家委員、仲委員、長田委員、羽入委員、
原山委員、望月委員、森委員
(欠席) 大野委員長代理、小谷委員、長谷川委員、藤野委員、松本委員
(事務局) 畠山局長、田中次長、水本企画課長

審議内容等

1. 前回の議事要旨（案）について

資料1「候補者選考委員会（第1回）議事要旨（案）」について内容確認を行い、議事要旨を確定することとした。

2. 選考方針（案）等について

資料2「日本学術会議会員予定者の候補者の選考方針（案）」等に基づいて事務局から説明するとともに、前回の委員会において外国籍の方を会員として選考することについて議論があったことを踏まえ、日本学術会議会長としての考え方を説明した後、意見交換を行った。主な意見は次の通り。

- ・これから学術の世界で外国籍の方の比率は増えていくため、外国籍の方の意見をどういふふうに取り上げるかというの、日本学術会議の大事なミッションになるので、継続した議論をお願いしたい。
- ・継続して議論することを公にすることが大事。国によってアカデミーのルールは違うが、日本国内だけではない論点等が入ることが重要なので、外国籍の方を会員としない場合においても、どのように国際的な視点を取り入れるかという枠組みを検討していただきたい。
- ・四つめの部会を完全に独立した形にするのか、第一部会、第二部会、第三部会とつながった形にするのかという選択が一番大きい部分。前回の議論はつながった方がいいのではないかという意見が多かったと思う。横断的分野の業績がある候補者は、人文・社会科学、生命科学、理学・工学のいずれかの業績もある候補者なので、横断的分野の業績だけ切り出して選考することは、なかなか難しい。
- ・四つめの部会の候補者に、産学官連携の業績が必須か、それともそういう業績のある方も評価して選考するということなのか、という部分がポイント。今の記載だと、必須の要件のように読めてしまうので、修正いただきたい。
- ・日本学術会議がディシプリンベースで適任者を選ぶというのは分かるが、今の産

学官連携の記載は、アクティビティベースで優れている者を会員にしようというように読めてしまうので、日本学術会議としては違うのではないか。

- ・産学官連携の部分をどういうふうに誤解なく表現できるかをもう少し考えていただきたい。
- ・最終的には選ばれたご本人の意志で第一部、第二部、第三部のいずれかに所属されるが、結果的に各部の人数バランスが悪くなってもよろしいか。
- ・各部の会員数が比較的近い人数であることが望ましいが、結果として多少アンバランスが生じてもそれは仕方ないのではないか。より良い候補者を選考いただくことが一番。
- ・既存の分野であっても、第一部、第二部、第三部という部をまたがる分野の候補者は選ばれにくい。今回、四つめの部会でうまく人を取り込めるような形になることが望ましい。そうすると、第一部、第二部、第三部に相当する三つの部会でまず選考して、三つの部会から四つ目の部会に候補者を上げる形にしてしまうと、これまでの問題点をなかなか修正できないのではないか。
- ・最後に候補者選考委員会で候補者を選考する段階で、この候補者は専門分野から外れているが業績はすばらしいので候補者に入れようというような調整ができるシステムになっていれば、柔軟性が生まれると思う。
- ・推薦された候補者を事務局が整理して候補者選考委員会に持ってくるという流れだが、明確に第一部、第二部、第三部に振り分けられる方はした上で、四つめの部会の候補者として少しでも可能性がある方は四つめの部会でも議論できるように、事務局の整理を丁寧にやっていただく必要がある。
- ・四つめの部会というカテゴリーで選ぶということを明確化するというのは非常にメッセージ性として結構ではないかと思う。それを掲げた上で、実際にどうやって推薦してもらうか、その行き方のトラックが複数あり得るというふうにしておかないと、うまくいかない可能性もあるのではないか。
- ・推薦者が特定のひとつのカテゴリーを指定するのではなく、第四のカテゴリーに当てはまる可能性のある人については、一と四、二と四、三と四など複数の推薦枠をチェックできるところを作って、チャンネルを広げておくことがよいのではないか。
- ・どのように選ぶか、どのような人を推薦していただくかっていうこともさることながら、日本学術会議がどういう人を選びたいかっていうことは前提として示した方がよいのではないか。また、部会の名称を第一、第二、第三、第四ではなく、少し工夫した方がいいのではないか。今回の選考の意図を伝えるためには、もう少し具体的な中身がイメージされるような形の方が良い。
- ・推薦人数は今回も二名で予定されているが、会員の人数も増えるし、新しい分野についても推薦をしてもらう時に、二名で大丈夫か。上限を三名に増やすほうが、

候補者を推薦しやすくなる可能性はないか。

- 三名だと多くなりすぎないかという危惧があるので、現状の二名でよいのではないか。
- 推薦されなければ選考の対象にならないため、推薦されるべき方が十分推薦されてくる必要がある。今回は大学、研究機関、学会、経済団体等からも推薦を受け付ける。これら全てから推薦が来るわけではないだろうが、このようなルートを作っているということが、今回の非常に大きな意味で、現実にはどの程度推薦が来るか、今回やってみて、その実績を次に向けての参考にするということだろう。
- 労働経済学の観点から言うと、年齢構成の多様性を阻害する最大の要因の一つは年齢差別で、年齢差別の典型が定年と言われているので、年齢構成において多様性の確保に努めることと定年の両方を記載するのではなく、若い会員がもっと増えるようにという趣旨をストレートに書くほうがよい。

3. その他

次回委員会については、12月26日（金）15時～17時に開催することとした。

以上